

腹腔内誘導マクロファージのNO産生に及ぼすソフィ -グルカンの効果

溝淵 俊二¹、谷脇 千穂²、渡部 嘉哉²、笹栗 志朗³

高知大学 医学部 臨床看護学¹、(株)ソフィ・研究開発部²、高知大学外科学(外科2)講座³

【はじめに】黒酵母由来の水溶性 α -1,3-1,6グルカンを経口投与するとマウス、ヒトでNK活性が有意に上昇した。腫瘍移植マウスに抗癌剤腹腔内投与とグルカン経口投与の併用で、抗癌剤の抗腫瘍効果が増強された。今回はこの併用療法が、腹膜播種治療として有効であるか検討するために腹腔内マクロファージのNO産生能を検討した。【方法】マウスに5%グルカンを自由給水にて投与するグルカン群(G群)と水のコントロール群(C群)の2群に分けて比較検討した。グルカン投与2週間後に2ml/匹のチオグリコレート培地を腹腔内に投与し、72時間後に腹水を採取した。続いて腹水から採取したマクロファージに、LPSとCon Aで2次刺激を加え培養した。48時間培養後、培養液上清中のNO量をGriess法で測定した。【結果】LPS刺激のNO量は、G群 4.54 ± 0.12 、C群 3.11 ± 0.13 、Con A刺激は、G群 1.31 ± 0.03 、C群 0.79 ± 0.04 $\mu\text{mol}/50 \mu\text{l}/5 \times 10^4\text{cells}$ であり、両刺激群ともNO値はグルカン群が有意に高値を示した。【結語】グルカン経口投与により、腹腔内マクロファージの活性化が確認された。従って、胃癌腹膜播種治療への効果が期待できる。